



1



2



3



4



5



6



7

【支援企業紹介】盛岡市 株式会社 デカルト

インターネット黎明期に誕生 開発力を武器に業務内容を拡大

90年代初頭のインターネット民間利用開始から20年余り、IT業界の技術進化は誰もが想像できなかったほどの速さである。平成8年(1996)に盛岡で創業した株式会社デカルトは、このインターネットの勃興とともに事業を拡大してきた。

当初、ホームページ制作などからスタートした事業は、平成12年頃から業務・教育分野のソフト開発へとシフト。研究開発型企業として、ウェブ図書館書管理ネットワークシステム「e-Libraryシリーズ」や医療現場で使用される三次元画像可視化抽出

システム「シリウス」などの製品を次々にリリースしていく。現在ではウェブソリューションはじめ、ネットワーク構築支援やシステム構築支援など業務内容は多岐にわたる。

なかでも同社が近年力を注いでいるのが、地域密着型ビジネスの展開だ。平成21年には岩手の食を全国に紹介・販売する目的で無料試食サイト「けろっこ」を開設、盛岡や東京でイベントも行うなどして会員数を着実に増やしてきた。「前沢牛だけが岩手の食ではない。地元には、まだまだ知られざる逸材があります」。サイト開発を通じ、誰よりもそれを実感している藤原隆司社長が力を込める。この取り組みの中で出会った食材が、岩手県

今春、岩手産ヤマブドウを使ったサプリメント「黄金 山葡萄の極」を開発したデカルトは、県内IT企業のリーダー的存在。異分野への事業参入を決めた藤原隆司社長に、戦略と展望を伺った。

【いわて産業振興センターに期待すること】
藤原社長は当センターの「起業家大学」の一期生。今後は農業の6次産業化などを目的とした生産者・研究機関・企業等のネットワーク構築と情報発信への支援を期待。

北で生産されていたヤマブドウだったのである。

県産ヤマブドウで健康食品開発 岩手の未来は農業振興にあり

日本固有種であるヤマブドウは、古来より滋養強壮や疲労回復・病氣療養などに使われてきた。近年は研究が進み、主成分のプロアントシアニンと呼ばれるポリフェノールはガンや生活習慣病の原因のひとつである4種の活性酸素を一度に除去できる唯一の成分であることも判明しているという。

「調査するうち私自身が試したくなった」と藤原社長は笑う。岩手県は全国生産量の5割を占めるヤマ

ブドウ産地であり、研究機関が開発した高価な濃縮エキスがあった。自ら飲用し効果を実感した藤原社長は商品開発に着手、健康食品産業への参入はもちろんその主原料を地元で調達するという、全てが県内初のプロジェクトに情熱的に取り組んだのである。そして平成26年3月、摂取が容易で価格も抑えたサプリメント「黄金 山葡萄の極」が誕生した。

販売開始から半年経ち、「黄金山葡萄の極」は本物志向の健康愛好家への認知・浸透がみられる。その武器が、同社が長年取り組んできたIT技術だ。「インターネットの強みは発信力の高さ。ヤマブドウを知らな

い人を取り込み、新たな市場を開拓できるんです」と藤原社長。さらには香港FoodExpo2014への参加、イスラム圏をはじめとする海外市場への参入準備を進めるなど、すでに海外進出も視野に入れているのである。

長年にわたり県内IT業界のトップを走ってきた藤原社長は「岩手の産業振興のカギは農業」と言いきる。世界的食料危機が来る前に日本は食料輸入国から輸出国への転換を図らなければならない、農業は大きなビジネスチャンスを秘めている。IT技術はそんな農業のブランディングのために使われるべきと考えているのだ。

「岩手の農産物の魅力を、ITを使って伝えていきたい」。思いは、熱い。

ヤマブドウをきっかけに健康産業への展開を

海外において「日本ブランド」は信頼度が高い。岩手県にはまだまだいい食材がたくさんあり、今回のヤマブドウが軌道に乗れば「ルート」ができます。サプリメント企画・販売に取り組む企業は県内では珍しいと思いますが、こういう産業が岩手に生まれる意義は大きいと思います。

技アリ!ポイント

企業データ

会社名 株式会社 デカルト
本社 盛岡市中央通3-17-7
電話 019-606-1070
代表者 藤原 隆司

創業 平成8年(1996年)4月
従業員 9名
業種 サプリメントの製造・販売、インターネット附属サービス業
URL <http://www.dicault.co.jp/>

代表取締役
藤原 隆司